

2023年7月 千葉公園「自然観察会のお知らせ」

日時：2023年7月8日（土）10時00分～12時00分（2時間）

集合：蓮華亭（受付9:45～）

内容：今月のテーマ：花と昆虫・シュロの葉バッタ作り

①ムクゲ（あおい科）

綿打池の東側に植栽された清楚な花がムクゲが見られます

②アガパンサス（ひがんばん科）

機関車のあるそばで茎の長い薄青色の花が咲いています

③モントブレチア（あやめ科）和名ヒメヒオウギズイセン

土手の高いところで咲くオレンジ色の花が梅雨空に揺れています

④ヤブカンゾウ（ゆり科）

土手に咲くもう一種類のオレンジ色の花はヤブカンゾウだよ

⑤モチノキ（もちのき科）

雌雄異株の常緑広葉樹モチノキを探して、葉っぱの観察ですよ

⑥コシアキトンボ（とんぼ科）

夏は昆虫採集だ。捕らえた昆虫をかごの中でしっかりと観察しよう！

持ち物：自然観察ができる服装と靴・タオル・飲み物・おやつ・図鑑（植物・昆虫・野鳥など）

カメラ・双眼鏡・敷物・帽子・雨具・筆記具・虫眼鏡・昆虫網と籠・葉など

お話し：亀井尊（ちばサイエンスの会・日本自然保護協会・自然観察指導員）

安全対策：1. ゆっくり千葉公園内を歩いて、自然に親しみます

2. マスクを着用し、距離を保ち、適度に水分補給をします

3. 植物採集、昆虫の採集はできません。観察のみです！

4. 植物のトゲ、昆虫の毒に注意しましょう

時間配分 9:45 受付開始

10:00～10:10 蓮華亭にて挨拶・資料配布・今月の自然解説・諸注意

10:10～11:30 コース

綿打池を時計回りで移動し展望台、市民プール近くまで行きます。

①ムクゲ（あおい科）の花の構造 ②花に群がるチョウ

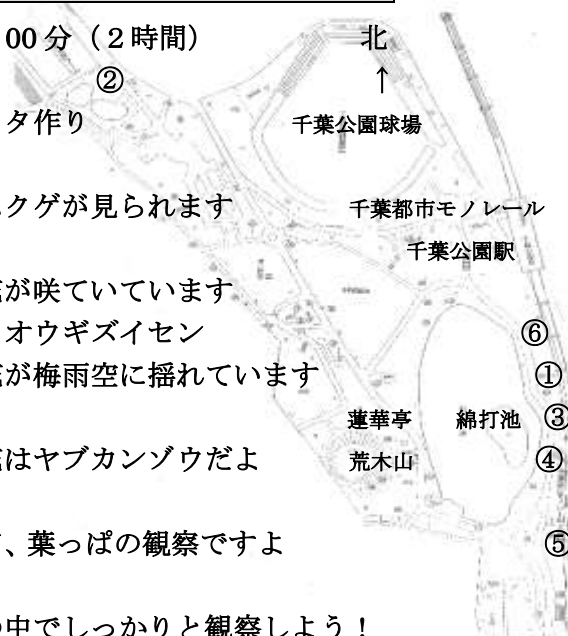
③モチノキってベタベタするの？ ④草花遊び「シュロの葉バッタ」

11:30～12:00 工作と観察会を振り返って。 来月の予定 8月12日（土）10:00～12:00

《観察のポイント》

1. ムクゲの花は暑い日差しの中で清涼感を味わうことができる爽やかな気品のある花です。あおい科の花の構造「花びらやオシベとメシベの付き方」。を調べてみましょう。
2. アガパンサスの花は茎が長いので風に揺れている光景が目に残ります。夕方になるとジャコウアゲハやクロアゲハなどが観察できます。葉にはセミの羽化した抜け殻も見られますよ。
3. モントブレチアの和名はヒメヒオウギズイセンと呼ばれ、あやめ科の植物です。夕日に照らされるオレンジ色の花を見ると夏が近いことが分かります。尖った葉の間から花が出ています。
4. カンゾウの花が土手の斜面で咲いています。春には葉を摘んで酢味噌和えや天ぷらにして食べます。ノカンゾウやヤブカンゾウはオレンジ色の花を咲かせ、梅雨空に映えます。
- 5.モチノキと聞いてお餅を創造する人がいることでしょう。お餅を手にしてべた付いた経験者も多いでしょう。この樹皮からとりもちを作って鳥を捕まえました。葉っぱの観察をします。
6. トンボが飛び始めると夏が近い。6月はシオカラトンボ、7月はコシアキトンボ、8月はウスバキトンボやアカトンボが公園内で見られ、網を持った子どもたちが走り回ります。

主催：NPO 法人 ちばサイエンスの会 連絡先 080(3503)6059（亀井）



【アカトンボの観察】

千葉公園の自然（花・草・鳥・昆虫など）に親しむ

《子どもたちが綱をもって公園内を走り回る季節となりましたが…》

6月のハス祭では多くの市民でにぎわった千葉公園でしたが、地域住民の皆さんが異口同音に「公園内の樹木が急激に減ってきている」という声を耳にしました。園内には伐採予定のビニールテープが巻かれた樹木が目立ち、行政の公園管理に何か納得のいかない思いでした。

それに加えて千葉公園の夜の景観が激変したことにもビックリしました。夜の千葉公園ではセミの羽化を毎年子どもたちと観察していますが、静かな暗闇の中で生命の神秘を経験できることはこの上ない喜びでした。それが周辺のビル群や住宅らの光害により、容赦なく光が公園内に降り注いでいるのです。千葉公園内に生きる動植物の存在を無視して降り注ぐ光の束に生きものたちの存続は危機的な状況であることを知っているのでしょうか。

地球温暖化による激しい降雨により土砂が綿打池に流れ込み、伐採された木々によって保水力は低下して池の水は汚れ出しました。樹木の植栽が緊急課題だと思いますが。

1. ムクゲ（あおい科） 槿花一朝の夢（きんかいっちょうのゆめ）一人の世ははかないという意味 一日花のムクゲの花弁は5枚、右巻きと左巻きがあります。どういうことでしょうか？

花びらの付き方を観察してみましょ。隣との花がどのようにしているか観察してみると、左右どちらかが隣の花の上に重なっていませんか。それが連続して同じ方向に重なり一周します。上に重なる方向が右であれば「右巻き」、左であれば「左巻き」と言います。



あおい科の特徴：萼片と花弁5・オシベ多数・メシベ複数合着して筒状になっているのが特徴
あおい科の植物：タチアオイ・フヨウ・ゼニアオイ・コモンロー・ハイビスカス・オクラなど
不思議発見1. 花弁の中心からメシベが飛び出ていますね。オシベは棒状のメシベに巻き付いているのを確認しましょう。どんな昆虫が訪れていますか？

不思議発見2. 花弁は5枚といますが、花弁の内側に複数の花弁が見られます。これは何が変化したものか考えてみましょう！

2. アガパンサス（ひがんばん科） 和名：紫君子欄

アガパンサスはギリシア語 *Agapanthus* の *Agape* アガペ（愛）＋*Anthus* アンサス（花）をいい、「愛の花＝無償の愛」という意味になります。

市営プール近くの花壇にずっと花首を立ち上げて花火のような放射状の涼やかな青色の花が毎年花を咲かせています。この花に群がるチョウを綱で捕まえようと子どもたちが走り回っている光景は実に良いものです。日が傾くころにはジャコウアゲハやクロアゲハなどのチョウが数を増やして飛び交っています。ジャコウアゲハは後翅の赤い半月紋と腹部が赤い特徴があります。



長い茎が伸びてきて、それからネギ坊主のような形になり、6月下旬頃から皮が破れて青色の花が咲き出します。以前はゆり科の植物でしたが今はひがんばん科ということですよ。

光沢のある厚い葉に目を向けるとセミの羽化した抜け殻が見られることでしょう。この時期のセミは泥をかぶった1cm位の小さな抜け殻です。ニイニイゼミといいます。

3. モントブレチア (あやめ科) あやめ科の特徴を復習「単面葉 - すべて裏側で刀のようです」
 名前の由来はフランス人モントブレットさんにちなんでつけられました。日本名では「ヒメヒオウギズイセン」といい、あやめ科の仲間です。スイセンの葉よりもグラジオラスの葉と言った感じにみえます。強健な球根植物で、関東以南では植えばなしでもよく育ちます。

《花言葉》

陽気・良い便り・楽しい思い出・純粋な人・気品
 謙譲の美・芳香・気品のある精神

子どものころから身近な存在として緋色した気品のある花としをヤブラン同様に愛でていました。

千葉公園ではモノレール下の土手で輝いています。



【モントブレチアの花と蕾と葉】

4. ヤブカンゾウ (ゆり科)

カンゾウの花には、ヤブカンゾウ、ノカンゾウ、ハマカンゾウなどゆり科わすれなぐさ属の草本の総称です。ヤブカンゾウとノカンゾウは陽あたりのよい野原や草地に、ハマカンゾウは海辺に生えています。いずれも多年草で7~8月ころ、葉の中央から花茎を伸ばし、橙黄色のユリに似た花をつけます。ノカンゾウとハマカンゾウが一重の6花弁であるのに対し、ヤブカンゾウは八重先で、色も赤みが強いので区別できます。

ノカンゾウは花の数が10個ほどあるのに対しハマカンゾウは3~6個と少ないです。



【ヤブカンゾウ】



【ノカンゾウ】



【新芽は食用】

5. モチノキ (もちのき科) 雌雄異株の常緑樹 11月ごろに赤い実をつけ野鳥の餌となります
 5月の観察会ではモノレールの下に植栽されているばら科の「カナメモチ」の赤い葉や白い花を観察しました。6月にはネズミモチやトウネズミモチの葉と白い花を観察しました。どちらの葉もモチノキの葉に似ているというので命名されたといいます。

でも、実際にモチノキの葉や実を見たことがないので、本当に葉が似ているのかがわかりません。今月はモチノキの樹木をしっかりと観察してみようと思います。今月はなぜモチノキというのか考えてみます。きっとお餅のような木なのかもしれません。植物図鑑でモチノキの名前の由来を調べてみました。モチノキの由来 《モチノキの葉に似ているというので命名された樹木》

「樹皮をはぎ取って、水によくつけて突き、繊維を取り除くと淡白色の粘着力の強いとりもちがとれることから名がついた」と書いてありました。

*とりもちとは、野鳥を捕まえる方法として棒にとりもちを付けました。



【カナメモチ】



【ネズミモチ】



【クロガネモチ】

6. コシアキトンボ (とんぼ科) 腰の部分が白くて素早い動きが特徴

6月の観察会ではトンボの採集をしました。シオカラトンボとオオシオカラを捕まえてかごの中で目の色を比べてみました。真剣になって色の違いを確認することができ、生物が多様に富んでいることに驚きました。

綿打池では全身が黒色で、腹部が白いコシアキトンボを捕まえて、一人ひとりが人差し指と中指の間にトンボの翅を挟んで、お腹の部分の色違いや目の色などを観察しました。透明な翅は網目がきれいでした。足に触れるとちよとくすぐったい感じでしたが、トンボが活着していることを実感できました。



《7月》 千葉公園の自然風景（花・草・鳥・昆虫など）

【①】ムクゲ



①ムクゲの花は涼やかで清楚な感じがします。
「権花一朝の夢」一日花って本当なの？

【②】アガパンサス



②アガパンサスの意味は「無償の愛」です。
たくさんの薄紫色の花をつける素敵な花です。

【③】アベリア



③モノレール下の土手に咲く季節の花モンテト
レチア。私の好きな花、何科の植物かな？

【④】クロタネソウ



④土手を濃いオレンジ色のヤブカンゾウが咲いて
います。ノカンゾウとの違いは何でしょう？

【⑤】モチノキ実



⑤モチノキは常緑樹で光沢のある厚手の葉です。
カナメモチやネズミモチの葉に似てるかな？

【⑥】コシアキトンボ



⑥綿打池の縁を飛ぶ黒色にお腹の部分が白いト
ンボ2匹が追いかけるように舞います。